



—日—一—本—B—B—S—連—盟—機—関—誌—

Big Brothers  
&  
Sisters Movement

# ともだち

発行：特定非営利活動法人日本BBS連盟事務局

〒151-0051 渋谷区千駄ヶ谷5-10-9 更生保護会館内 TEL 03(3356)7383 FAX 03(3356)7610

Vol.218

2019

(H31年)

3・6月

合併号

「BBS運動発足70周年記念誌」が、完成しました。(A4版、236頁)



富山县BBS連盟：親子ふれ合いフェスタ

## \* \* \* もくじ \* \* \*

・ 会長からのメッセージ	2
・ 保護局長挨拶	3
・ 令和元年度総会開催報告・令和元年度事業計画	4-5
・ 役員名簿・役員挨拶	6-7
・ 平成30年度BBSモデル活動事業結果報告	8
・ 記念碑の集い	9
・ 日本更生保護学会第7回大会分科会報告	10
・ アジア太平洋地域準備会合参加報告	11
・ 第6回学生BBS会員全国研修会(福岡)報告	12-13
・ 平成30年度コンセプト・スタディ中間報告	14-17
・ お知らせのページ(日本BBS連盟会長特別表彰、更生保護制度施行70周年記念大会、ユースフォーラム参加者の決定と第1回研修会、クラウドファンディングを活用した資金調達等)	18-19
・ お知らせのページ・会長の動き・編集後記	20



## 会長からのメッセージ

特定非営利活動法人日本BBS連盟戸田会長から会員へのメッセージをお届けします！

1 令和元年度の特定非営利活動法人日本BBS連盟総会が令和元年5月18日、19日の2日間にわたり、東京千駄ヶ谷にある更生保護会館において開催されました。総会には会員である全国の都道府県連の代表者の方々等に参加して頂き、改元後、初めての記念すべき総会を盛大に開催することができました。



2 当日の総会には、来賓として更生保護行政を所管する法務省保護局更生保護振興課押切久遠課長が出席され、保護局長のご挨拶を頂きました。会員を激励して頂くとともに、修学支援・学習支援の重要性、コンセプトスタディを通してBBS運動の一層の多様化・活性化、保護司会・更生保護女性会との一層の連携の強化、2020年4月に開催されるユースフォーラムへの取組の必要性などについて御指摘を頂きました。

続いて、BBS運動の発展に貢献された方々に対し、日本BBS連盟会長特別表彰が行われ、表彰状と記念品の授与が行われました。

3 その後、議事に入り、担当理事から平成30年度の事業報告、活動結果報告、会計報告を行い、監事から監査報告を行いました。平成29年9月23日、24日の2日間にわたる、当時の皇太子殿下同妃殿下御臨席の下に開催されたBBS運動発足70周年記念事業を機に、「過去から未来へ つづける・つなげる・つぎの手に」の記念事業のキーコンセプトに基づき、BBS運動の精神とその意義を一層広く社会に訴えるため、社会的弱者となっている子供や家庭を支援する事業の助成の他、更生保護機関等と連携し、地連ごとにBBS会員を中心として様々なプロジェクトを実践し時代に適合した新しいBBS運動を模索する「コンセプト・スタディ」などを実践しました。

4 さらに、このような成果を踏まえて、理事会の決議を経た令和元年度の事業計画(新規施策を含む)とこれに伴う予算を報告しました。本年度の重要な事業として、10月7日には更生保護制度施行70周年記念大会が東京フォーラムで予定されています。平成29年12月、再犯防止推進計画が閣議決定され、再犯防止は安全で安心して暮らせる社会を実現する上で重要な課題となっております。また、SDGsの達成に向けての活動も求められています。さらに、2020年4月には、京都でコングレス(第14回国連犯罪防止刑事司法会議)及びユースフォーラムが開催されます。このような様々な観点から、本年度の事業計画を策定して、会員の皆さんとの理解と協力を得ながら、積極的に取り組んでいきたいと思っています。

重要な事業としては、

- ①ポスト70周年プロジェクトBBSコンセプト・スタディの一層の推進、
- ②BBS、沼田町、沼田町就業支援センターの三者連携プロジェクトの充実、
- ③クラウドファンディングの活用の支援、
- ④地方別BBSスキルアップ研修、
- ⑤2019年9月、オーストラリアで開催される「第4回世界保護観察会議」と2020年4月京都で開催される「ユースフォーラム」への会員の参加などがあります。

これらの事業は、いずれも、時代に適合した新しいBBS運動の在り方を模索するとともに、ユースフォーラムには世界から青年が集まり、再犯防止など世界各国が共通して取り組んでいる課題について討議することですので、日本BBS連盟としても、我が国独自のBBS運動を紹介するよい機会と考えます。

5 最後に、会員の皆様からの様々な提案・意見(ともだち活動の活性化、個人会員の役割、学生研修のあり方・評価など)について、提案理由の説明と質疑、意見交換を行いました。2日間にわたり、大変充実した総会となりました。

6 不幸にして非行に陥った青少年等を対象とするBBS運動や更生保護の基本理念は確固たるものがありますが、BBS運動を含め更生保護を取り巻く情勢は、昨今の社会的耳目を集めた事件や社会情勢の変化を含めて何かと厳しいものがあります。しかし、次の80周年を目指し、新たなBBS運動の在り方を模索しながら、ともだち活動の活性化策、学習支援活動の充実、保護観察所・保護司会・更生保護女性会、地域等との連携の在り方などに本年も引き続き取り組み、更生保護関係機関等の理解を得ながら、会員の皆様の積極的で一段と工夫された質の高い活動による新たなBBS運動の展開を期待しております。

令和元年5月20日

特定非営利活動法人日本BBS連盟会長 戸田信久



# 保護局長挨拶

本日、令和元年度日本BBS連盟総会が開催されることを心から御祝い申し上げます。

全国各地に約4200人いらっしゃるBBS会員の皆様には、日頃から保護司等の更生保護関係者や地域の関係機関と協力して、非行のある少年の立ち直り支援や、“社会を明るくする運動”等の非行防止活動、さらには、生きづらさを抱える少年に対する居場所作りなどに熱心に取り組んでいただいており、改めて心からの敬意を表します。

また、本日御参集の皆様は、都道府県BBS連盟の代表者として、先頭に立ってBBS運動を積極的に展開されており、更生保護行政を預かる立場にある者として大変心強く感じております。

本日と明日の2日間にわたり開催される総会では、本年度における日本BBS連盟の事業内容等の審議が行われると伺っており、この場をお借りして、私どもがBBS会員の皆様に対してお願いしたいと考えていることを、4点述べさせていただきます。

第1に、御承知のとおり、非行少年等が地域社会の一員として成長していくためには、彼らを受け入れる適切な居場所や環境を作ることが大切です。

とりわけ、若者ならではの柔軟な発想や行動力によって、積極的に非行少年等の居場所や環境作りに取り組まれているBBS会員の皆様の役割は、今後ますます重要なものとなってきます。

具体的な例を申し上げますと、平成29年12月に策定された、政府として初となる「再犯防止推進計画」では、「学校等と連携した修学支援の実施等の取組」が重点事項の一つとして掲げられています。BBS会員の皆様が実践している学習支援活動は、まさに推進計画で掲げられた修学支援の具体的な取組の一つです。

引き続き、修学支援を中心とする非行少年などへの支援に御協力をいただきますようお願いいたします。

第2に、BBS運動は、一昨年の平成29年に一足早く運動発足70周年を迎えたましたが、これまで受け継がれてきた伝統を胸に、記念式典のキーコンセプトである「つづける・つなげる・つぎの手に」を実践すべく、活動の更なる多様化や活性化が期待されています。

この点で、昨年度以来、「コンセプト・スタディ」や「BBS・沼田町・沼田町就業支援センター3者連携プロジェクト」などを通じて、新たな時代が求めるBBS運動の姿を模索するべく、様々なチャレンジングな活動を実践されておりますことに敬意を表します。特に、「コンセプト・スタディ」は、次世代を担う若い会員が一層自由な発想の下で、新規分野の開拓や新しい方法論を試してみる絶好の機会です。これを大きく育てることは未来のBBS運動にとって大変重要であり、大いに期待しております。同時に、BBSという、「運動体」をダイナミックに展開させていく中で、少しずつ周りにいる人たちを巻き込み、会員の増強を図りながら大きな渦へと発展させられるとともに、さらにこういった若者の力やその活動の勢いを組織管理の在り方に反映し、未来のBBS運動はどうあるべきかについて考察を深められ、組織としても発展していかれることを願っております。

第3に、本年は、更生保護制度が施行されて70周年を迎える節目の年であり、令和という新しい時代を迎え、まさに更生保護の大きな花を咲かせる起点となる1年にできればと考えております。そういう意味で、BBS運動がさらに活性化し、更生保護全体を引っ張っていっていただければと願っております。その中で、これまで保護司、更生保護女性会、そしてBBS会の三者の連携を円滑にするため、様々な取組が進められて参りましたが、その一層の強化を図り、その中から、たとえば、BBS会員として実績を積まれた方の中からもっと若手保護司が生まれてきて良いのではないかと考えております。

第4に、来年4月には、京都で「第14回国連犯罪防止刑事司法会議」(いわゆる京都コングレス)及びBBS会員も参加する「ユースフォーラム」が開催される予定です。

昨年末、日本BBS連盟と共に全国のBBS会員に対して参加者の募集を行ったところ、全国から多くのBBS会員に応募していただきました。今後、約1年をかけて準備し、ユースフォーラムに参加する世界各国の若者に対して日本のBBS運動について発表するとともに、青少年犯罪の予防や社会復帰における若者の役割について議論することとなっています。

2030年に向けて世界が合意したSDGs(持続可能な開発目標)の理念である「誰一人取り残さない社会」の実現に、BBSとして貢献できる大きなチャンスでもあります。

皆様におかれましては、ユースフォーラムが有意義な会議となり、我が国のBBS運動について海外の多くの方々に知りていただけるよう、御支援、御協力をよろしくお願いいたします。

最後に、今後とも更生保護に対する変わらぬ御理解と御協力をお願い申し上げ、また、各地区や学域におけるBBS運動のますますの御発展と本日御参集の皆様の更なる御活躍を祈念し、私の挨拶といたします。

令和元年5月18日

法務省保護局長 今福章二

人はみな、  
生かされて  
生きてゆく。  
更生保護ネットワーク



# 令和元年度 総会 開催報告

■期日：令和元年5月18日(土)～19日(日)

■会場：更生保護会館4階 大会議室

■内容

(1)日本BBS連盟戸田会長挨拶

(2)法務省保護局押切更生保護振興課長挨拶

(3)日本BBS連盟会長特別表彰授与～青森県連代表に授与しました。

(4)定数確認、議長選出及び議事録署名人の選任（議長：地連理事、書記：日B連常務理事）

(5)協議

\*1号議案 平成30年度事業結果報告

\*2号議案 平成30年度一般・特別各会計決算報告

\*3号議案 業務・会計監査報告

\*4号議案 監事の選任

(6)理事会報告

\*令和元年度事業計画及び一般会計・特別会計予算

\*任期満了に伴う理事の選任

\*名誉会長の辞任及び顧問の推薦

(7)平成30年内閣府青年国際交流事業参加報告～植竹会員が報告しました。

(8)第6回学生BBS会員全国研修報告～久留米大学BBS会山本実行委員長が報告しました。

(9)会員提出の提案・意見等について～宮野会員、釧路連盟、佐賀県、熊本県、和歌山県から提案された事項について、会員に説明を求め、全員で協議しました。



## 各議案・報告等の主な内容



1号  
議案

平成30年度事業経過報告について～犯罪・非行の認知件数は毎年減少している一方、小中学生の不登校は4年連続で増加し昨年は13万人を超え、いじめ認知件数は過去最多の41万件、児童相談所における虐待相談件数は昨年13万件を超えるなど深刻になっている。全国の会員約4500人の約4割が学生であり、キーコンセプトを踏まえて若い会員を取り込み、外国人BBS会員活動促進プロジェクトなど、未来志向の視点から新たな取組を模索した。モデル活動事業の実施要領を改訂し、8事業を助成した。地方連盟ごとに、青年会員を中心としたチームを立ち上げて2年間をめどに実践を経て、時代に合ったBBS運動を模索する「コンセプト・スタディ」に取り組み、沼田町3者連携プロジェクトを支援した。

2号  
議案

平成30年度一般会計・特別会計決算書について～承認されました。

3号  
議案

業務・会計監査結果報告について～承認されました。

4号  
議案

監事の選任について～5月31日で任期満了となる監事3名が再任されました。

理事会  
報告等

令和元年度事業計画及び一般会計・特別会計予算、令和元年度行事予定、任期満了に伴う理事の選任について、名誉会長の辞任及び顧問の推薦等について報告されました。

保護局  
連絡事項

BBSの状況、京都コングレス・ユースフォーラム、クラウドファンディングを活用した資金調達に関する実践研究について説明があり、総会2日目の午前中、独立行政法人福祉医療機構経営サポートセンターの中野佑一主査から、「クラウドファンディングがつなぐBBS会と地域のさらなる可能性」の講義があり、質疑応答が熱心に行われました。

**（活動方針）**

未来を担う子どもたちを取り巻く環境は急激に変化し、人間関係に悩み、社会に適応できず、非行に陥る子どもたちや虐待はじめ様々な被害を受ける子どもたちが増加している。再犯防止は、安全で安心して暮らせる社会を実現する上で、大きな課題になっている。平成29年12月、再犯防止推進計画が閣議決定され、また、SDGs（持続可能な開発目標）達成に向けて、日本BBS連盟は、BBS運動の更なる活発化に取り組んでいる。我が国の更生保護制度が施行されて70周年を迎える本年は、新たに設置された「更生保護国際ネットワーク推進本部」に参画し、2020年4月に開催する京都コングレス（第14回国連犯罪防止刑事司法会議）及びユースフォーラムに向けて、更生保護及びBBS運動を国内外に示していく年でもある。そこで、本運動の一層の充実と発展を期し、学生会員の増加と活動を一層充実させ、地区会・都府県連・地方連盟・日本BBS連盟の相互の連携強化を図るため、諸施策を実施する。

**（重点施策と事業計画）**

- 1 地方連盟・都府県連盟との緊密な連携の下に、地区BBS会の活動を支援する施策を推進する。
  - (1)(新規)都府県連盟・地区BBS会が、インターネットを活用して支援者を確保し、活動に必要な資金を調達する「クラウドファンディング」に取り組むよう、法務省保護局とともに支援する。
  - (2)引き続き「沼田町三者連携プロジェクト」を共催するとともに、更生保護機関と連携し、地方連盟ごとに学生・青年のBBS会員を中心としたチームを立ち上げ、様々なプロジェクトの実践を経て、時代に合ったBBS運動の姿を模索する「コンセプト・スタディ」を継続し、その結果をまとめる。
  - (3)(新規)更生保護ボランティアの価値を世界に広めるため、更生保護国際ネットワーク推進本部に参画し、9月にオーストラリアで開催される「第4回世界保護観察会議」、来年4月に開催される京都コングレス及びユースフォーラムに若いBBS会員が参加して交流できるよう必要な支援を行う。
  - (4)外国人BBS会員活動促進プロジェクトの実施結果を踏まえ、引き続き外国人BBS会員が活動しやすい環境整備に努める。
  - (5)非行少年及び社会に適応できない少年を助けるため、地方自治体や関係団体と連携し、ともだち活動、学習支援等を推進する。
  - (6)全国のBBS運動に関する情報を収集し、全国への発信を推進する。
    - (a)更生保護事業振興財団、共同募金会の助成を受けて、機関誌「ともだち」を年4回発行する。
    - (i)ホームページを活用して積極的に情報を発信し、支援者を求める。
    - (u)「更生保護」誌のBBS通信に、全国の地区会活動の掲載を継続する。
    - (e)全国の大学、特に福祉系、法科系の大学にBBS運動を広報する。
    - (o)各種メディアを活用し、情報を提供し、積極的に発信する。
  - (7)関係機関・団体に機関誌等広報資料の提供、会合・行事への出席・参加協力をを行い、連携強化に努める。
  - (8)内閣府の国際交流事業の紹介斡旋を行い、国際交流を推進する。
  - (9)学生会員の卒業や会員の転居に伴う活動の継続、地区会

の枠を超えて活動できる仕組みの試行などに協力し、活動の継続・活発化を目指す。

- (10)BBS会員のOB・OGの組織化に協力する。
- 2 第69回“社会を明るくする運動”に参加協力する。
  - (1)中央行事に構成団体として参加協力する。
  - (2)全国で展開される各種事業に各BBS団体が参画することを推奨する。
  - 3 財政基盤を確立して支援者を増やす。
    - (1)資金調達力（ファンドレイジング）を高めるため、資金調達を通じて、諸団体とつながり、BBS運動の支援者が増え、社会に認知され、理解されるようノウハウを蓄積する。
    - (2)機関誌、ホームページ等を通じて広報し、会員継続率を高めるとともに、クラウドファンディングを利用するなどして、新たな支援者・理解者を求める。
    - (3)昨年度に続き、寄付や会費納入にNPO法人向けオンライン決済システムの導入を検討し、指定寄付者、賛助会員の増加・維持に努める。
  - 4 保護司会及び更生保護女性会との三者連携に努め、新たな地区BBS会の組織化、会員の増強その他の支援について働きかける。
  - 5 (新規)10月7日(月)東京国際フォーラムにおいて開催される更生保護制度施行70周年記念全国大会を共催し、式典に協力する。（本年度に限り、当連盟主催の法務大臣感謝状贈呈式は開催しない。）
  - 6 地連研修会等において、会長表彰を行う。
  - 7 会長特別表彰受賞者に対する贈呈は、総会において、該当連盟会長に授与する。

**（その他の施策）**

- 1 令和元年11月23日(土)24日(日)、国立オリンピック記念青少年総合センターにおいて第60回BBS会員中央研修会を実施する。
- 2 第7回学生BBS会員全国研修会(交流会)を支援する。
- 3 更生保護学会においてBBS活動の現状や理解を深めることに努める。
- 4 (新規)京都女子大学前のBBS記念碑を顕彰することを検討する。（従来は、「記念碑の維持・管理は日B連が行う扱い」であった。）
- 5 保護観察所が実施するBBS会員新人研修に積極的に参加協力する。
- 6 保護観察所が実施する社会貢献活動、並びに従来からの社会参加活動に積極的に協力する。
- 7 地方連盟の大会・研修会に対する役員の派遣、講師の紹介・斡旋に努める。
- 8 地区会の新規発足や再発足を促進し、発足した地区会を支援する。
- 9 法務省保護局が実施する調査とは別に、当連盟として、全国の状況の調査を実施する。地連及び都府県連盟（北海道にあっては札幌、函館、旭川、釧路の4連盟）の総会資料を日B連、地B連に提出するよう要請する。
- 10 研修の在り方を検討し、法務省が実施するBBS会員スキルアップ研修に協力する。
- 11 事業会計では、トートバッグ、クリアファイル、バッジ、リーフレットの残部が僅少になった場合は新たに作成する。
- 12 その他、当連盟の事業目的を達成するために必要と認められる事業を実施する。

## 令和元年度 日本BBS連盟役員名簿

役 職	氏 名	役 職	氏 名
会長	戸田信久	常務理事	畔上信康
副会長	田中燈一		柴香里
	越野和宏		長谷川正光
理事(北海道)	佐藤恵美子		小山貴弘
(東北)	房間修一	(事務局長)	西瀬戸伸子
(関東)	栃木政章	監事	茂呂雅之
(中部)	前川昌司		桑原明
(近畿)	高垣晴夫		石井啓誉
(中国)	花之木憲一		
(四国)	豊田委晋		
(九州)	穴見明弘		

★:今年度からの新任役員、  
●:それ以外は28年度に引き続き再任

理事の退任:原田喜信、大崎朋子、松元孝也、廣川洋一(令和元年5月31日任期満了)

顧問に委嘱:原田喜信(元副会長、令和元年6月1日付)

顧問の辞任:柴田雄輔

### 【顧問の方々】

磯部吉晴	伊藤孝子	尾田清貴	小野千賀子
小林稔	佐藤広政	田邊健児	中尾巳代子
原田喜信	藤本昌弘		

### 【お知らせ】

馬場義宣名誉会長は、平成31年4月13日理事会に辞表を提出されました。これまでのご指導に役員並びに会員一同感謝申し上げます。

原田喜信副会長は、令和元年春の叙勲において、更生保護の功労により、瑞宝双光章を受章されました。

## 令和元年度 新任役員の紹介

### 越野 和宏(中部地方連盟理事退任、副会長就任)

平成最後の4月理事会にて副会長に選出させて頂きました越野和宏と言います。  
微力ではございますが、どうぞよろしくお願いします。

更生保護との関わりですが、高校生だった18歳で金沢市BBS連盟の会員となり、20代で地区会長、県連会長と続けてさせて頂き、31歳で保護司、30歳後半に中部地連会長となり、この度副会長の役職の拝命となりました。

会員となって25年ほど経ちますが、BBS活動を通じてたくさんの経験や人との出会いがあり、特に地区会長時代と25歳の時に実行委員長をした「第1回こども・みらい・サポート事業」の時には、今では経験できない若さゆえの「勢い」があり、表現がおかしいかもしれません、「怖いもの知らず」みたいな感じで突っ走っていました。

自分の経験もありますが、やはり若い会員の力がBBS全体の盛り上がりには欠かせない存在です。  
会員が継続して活動できる環境を皆さんとともに取り組みたいと思います。

どうぞ、よろしくお願いいたします。



前川 昌司

中部地方BBS連盟（福井）

地連事

このたび中部地方BBS連盟の会長に就任しました。会員として活動を始めて約20年、活動で大事にしているのは「同じ目の高さ」で接することです。

地連会長及び日B連理事は大役ですが、無理をしないで、これまでの経験を生かし、新しい時代のBBS運動の発展に協力できればと思っています。

よろしくお願ひします。

多田 委晋

四国地方BBS連盟（香川）

地連事

青年ボランティアと言う名の下で、おこがましくもシルバー世代に指が届くような私が此度、地連会長職を拝命することとなり、大変恐縮を致す次第です。

BBS活動の根幹は「ともだち活動」ですが、昨今は引きこもり少年をみたり、自立支援施設での学習支援、児童の健全育成事業等と昔と比べ多少なり方向性が、時代の流れと共に変遷してきております。ですがそれも「社会を明るくする運動」に通ずることには違いはありません。今後もそれらの活動に関わり、BBS会員として、誇りをもち更生保護の更なる活動に邁進して行けるよう奮励する所存ですので、よろしくお願ひ申し上げます

穴見 明弘

九州地方BBS連盟（熊本）

地連事

本年4月の理事会で、承認を受け会長となった穴見です。

今年は長年の懸案であった佐賀県連が九Bに復帰してくれ、みんなで喜んでいます。

私自身「うっかり〇兵衛」なので皆さんからのご指導を仰ぎ、九州の残った課題(宮崎県連の再構築等)を目標として、九州の会員の皆と共に頑張って行きたいと思っています。

宜しくお願ひ致します。

## 副会長退任の挨拶

原田 喜信（副会長退任、顧問就任）

平成18年から13年間、日本BBS連盟の副会長をさせていただきました。

その間にBBS運動の60周年と70周年に関わらせていただきましたことに感謝いたします。周年事業の度に安定した財源の確保の為に、連盟の法人化が検討されました。実現までは至りませんでした。しかし、平成28年戸田会長のもと、念願の特定非営利活動法人の認定を受けました。それに立ち会えたのは幸せでした。



副会長在任中は、会長の代わりに各地方の大会に参加させていただき、会員や関係者の皆様との交流に、地域での特色ある活動に興味を惹かれました。

私は昭和45年にBBSに入会しました。当時は、ともだち活動が盛んな最後の時期でした。そういう時期に入会できたことが良かったと思います。入会2ヶ月後にはケースの担当をしました。早い時期にケースを担当できたことが、これまでBBS活動を続けてこられたのだと思っています。1対1のともだち活動の依頼があれば、ぜひ担当されることを願います。自分と向き合う良い経験になります。

BBS運動をする中で、昭和53年に保護司を拝命しました。BBSをしていたので対象者の約9割が少年のケースです。この度、令和元年春の叙勲に際し瑞宝双光章の受章の栄に浴しました。多くの人に支えられての受章だと感謝しています。

6月から顧問として、BBS運動の発展に少しでも貢献できるように取り組みたいと思いますので、宜しくお願ひ申し上げます。



# 平成30年度BBSモデル活動事業結果報告

平成30年度は8つのモデル活動事業が実施されました。活動の詳細は、「平成30年度モデル活動事業結果報告書」にまとめられ、発刊・配布済です。

平成9年度から公益財団法人日立財団の助成により続けられてきた「モデル活動事業」は、平成30年度をもって終了しました。同財団から賜りましたご理解とご支援に深く感謝申し上げます。

## 1 学校適応指導教室児童とのウッドブロック体験

苫小牧BBS会(札幌連盟)

苫小牧市教育委員会、保護司会、更生保護女性会の連携・協力により、不登校児童生徒の学校適応指導教室「あおば学級」授業で“ウッドブロック”体験をした。平成30年12月4日(火)午前9時から午後2時半まで、苫小牧BBS会4名、岩見沢・スワン・SGU江別から各1名、児童生徒13名(小学生2名、中学生11名)苫小牧地区保護司会2名(運営支援)、苫小牧更生保護女性会9名(調理支援)が協力した。今後、同学級の年間行事計画として開催できるよう調整を進めたい。BBSモデル活動事業に適合した活動の場を模索し関係機関と連携を深め活動の幅を広げたい。

## 3 BBSカフェ

福井県BBS連盟

学校、児童養護施設、保護司会、更生保護女性会と連携・協力し、毎月1回程度、公民館またはお寺などで、ひとり親家庭や児童養護施設などの小学生から高校生までを対象とした学習支援やスポーツ交流、レクレーションを無料で行い、子どもたちに更生保護活動の紹介をした。31年度はコンセプト・スタディとして実施する。

## 5 作ろう！僕たち・私たちの居場所

名古屋南地区BBS会(愛知県連盟)

自立援助ホーム「いっぽ」、土岐地区BBS会、名古屋市立大学BBS会が連携し、児童とスポーツや食事を作って食べるグループ活動を4回実施した。この居場所は、物理的な居場所だけではなく、安心して信頼できるお兄さんやお姉さんという心理的な居場所を提供する。

## 7 児童養護施設の子どもたちとのふれあい活動

徳島文理大学BBS会(徳島県連盟)

児童養護施設「宝田寮」、徳島県青少年育成アドバイザーの会、徳島保護観察所と連携・協力し、BBS会員18名、阿南市の児童養護施設「宝田寮」の児童生徒10名を含む総勢35名で、6月23日、徳島県立神山森林公園で、ネイチャーゲーム、ボール遊び、工作、食事等を通じて、子どもたちの豊かな成長を助けた。

## 2 みんなで山に登ろう！雄阿寒岳登山

釧路BBS会(釧路連盟)

釧路山岳連盟、釧路まりも学園(児童養護施設)と連携・協力し、山の日の行事として児童養護施設園児、対象少年を想定して企画したが、日程の事情で参加希望者がいなかったため、地元高校生を募集した。8月11日(土)高校生15名、総勢44名で実施したが、コースの難易度が高かった。

## 4 BBS&子ども食堂

名古屋市立大学BBS会(愛知県連盟)

名古屋市立大学人文教育学部山田美香研修室、みずほみんなの食堂及び西福寺おかげさま食堂(いずれも子ども食堂)と連携し、貧困家庭や孤食の子どもを対象に毎月1回開催し、食事の提供や学習支援、レクリエーション等を行った。

## 6 学習に困難がある子どもの学習支援

高野山BBS会(和歌山県連盟)

児童相談所、和歌山市こども総合支援センター、NPO法人「Peer」心理教育サポートネットワークと連携・協力し、経済的困窮、不登校などにより学習に困難を抱えている子どもたちに対し地域の関係機関と連携し、毎週土曜日に学習支援を行うと共に食事の提供も行った。

## 8 熊ビー食堂

熊本BBS会(熊本県連盟)

児童養護施設(龍算学苑、藤崎台童園、広安愛児園、熊本ライトハウス)、熊本市保護司会(中央・東・西・南・北)、熊本市更生保護女性会(出水・湖東・西部地区・帯山・東地区・植木)と連携・協力し、4施設の子どもたちと料理作りを通して交流を図り、バスハイクで野外調理を体験した。



祝

# “BBSの日”<2月22日>!

～BBS記念碑に集う～



日本BBS連盟常務理事 長谷川 正光

平成31年2月24日(日)、今年も京都女子高校校門前に建立された「BBS記念碑」に、65人が集いました。北は青森、南は佐賀から、BBS会員、BBS・OB会員、法務省職員(保護局更生保護振興課森川武嗣補佐官、近畿地方更生保護委員会荒木龍彦委員長ほか)、京都更生保護女性連盟会長など更生保護関係者が参加しました。

記念碑は、BBS発足50周年記念に建立されてから20年経過。文字盤等の一部が劣化していたため平成29年秋に補修された記念碑を参加者で磨いた後、午前11時から式が開始。まず、記念碑実行委員会の石黒忠夫委員長の挨拶、日本BBS連盟戸田信久会長の挨拶が続き、法務省保護局今福章二保護局長からのメッセージを託された同局の更生保護振興課森川武嗣専門官が代読、また、記念碑設置場所を提供している学校法人(京都女子学園の鎧木純子事務局長も駆けつけていただきお祝いの言葉を賜りました)として建立された記念碑)



最後に、全員で「BBS会員綱領」の唱和、「BBSの歌」を斉唱、記念撮影(下図)となりました。

約30分間の集いの後、徒歩5分の交流会場「東山閣」へ移動。

昼食を摂りながら、参加者全員が所属するグループごとの自己紹介をしながら和やかに交流会が進行。

この場の注目は我が国のBBS運動の産みの親である宇田川潤四郎先生(BBS発足の昭和22年当時の京都少年審判所長)の2人のご子息の参加でした。(長男)宇田川潔氏は鎌倉市、(四男)宇田川博道氏は宇都宮市から駆けつけていただきました。お二人からは、父上である潤四郎氏がBBSに馳せた想いやご自身のBBS活動に対する大きな期待感を熱く語りかけられ、参加したBBS会員にとっては大きな励ましになったことでしょう。



宇田川潤四郎先生のご子息二人



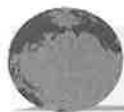
## 日本更生保護学会第7回大会・BBS分科会

平成30年12月1日・2日の2日間、第7回日本更生保護学会大会が、立教大学(池袋キャンパス)において開催されました。2日目のBBS分科会では「BBS運動の新たな活動～BBS発足70周年・キーコンセプト「つづける・つなげる・次の手に」を考える～」をテーマに、高垣晴夫(近畿地方BBS連盟・日本BBS連盟理事)の司会の下、次の5人から発表がありました。

- 森川武嗣(法務省保護局更生保護振興課専門官)  
2020年4月開催の京都コングレス(国連犯罪防止刑事司法会議)のユースフォーラム分科会の一コマ
- 尾亦恭輔(東京都BBS連盟・早稲田大学広域BBS会)  
「BBS・沼田町・沼田町就業支援センター3者連携プロジェクト」に参加し、同センターに入所する少年たちと農業実習やグループワークを通しての交流体験を報告。
- ソ・ヘジン(島根県BBS連盟・松江地区BBS会)  
韓国から島根大学に留学中にBBS会に入会することになった動機や所属するBBSかの活動内容等について発表。
- 田中心(京都BBS連盟・左京地区BBS会)  
少年院(和泉学園)へ毎月訪問し、義務教育課程の学習支援活動内容等について発表した。
- 大須賀史紀(東京都BBS連盟・日本社会事業大学BBS会)  
主な活動である「こども食堂」を始めたきっかけや活動内容を中心に発表したほか、年2回実施されている保護観察中の少年たちとのカレーの会についても紹介した。

各者発表後、フロア参加者との和やかな質疑応答。最後に指定討論者として日本BBS連盟戸田信久会長より総括のコメントがありました。





# アジア太平洋地域準備会合参加報告

早稲田大学広域BBS会 尾亦 恭輔

私は2019年1月22日～24日の間、「京都コンгресスアジア太平洋地域準備会合」に参加してきました。

京都コンгресスは、正式名称を「第14回国連犯罪防止刑事司法会議」といいます。世界各国の政府代表や国際機関、NGO関係者、刑事司法犯罪防止専門家が集まって、関連する諸課題についての議論・提言を行う国際会議です。そして京都コンгресスの直前には、各国の若者同士で犯罪防止に関する議論を行う「ユースフォーラム」というイベントが開催されます。このユースフォーラムにおける分科会のひとつ、「青少年犯罪の予防・罪を犯した青少年の社会復帰における若者の役割」に、BBS会員が参加することが計画されています。

そして京都コンгресスに先立ち、タイのバンコクにおいて開かれたのが「京都コンгресスアジア太平洋地域準備会合」です。地域準備会合では、地域において重視する課題について各国が意見を発信しあうことで、京都コンгресス本会議で採択する宣言の土台をつくります。国連が地域準備会合を開催するにあたっては、各国代表団にユース(若者)を含めることが推奨されていました。そのため今回法務省保護局から依頼をいただき、BBS会員である私が地域準備会合に参加することになったのです。

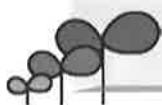
地域準備会合では、各国代表団の前で日本法務省職員の方に紹介をいただいたのち、「ともだち活動」と「グループワーク」について個人的体験を交えつつ紹介しました。その中で特に強調したのが、「非行のあった子どもたちと対等な、少し年上の仲間という立場で、彼らとおなじ空間を過ごす」というBBS活動の特徴です。子どもの監督者ではなく仲間という存在になることが、経験豊富な保護観察官や保護司の方々にはできない、私たち学生だからこそ果たせる役割なのだ、という趣旨の話をしました。

これに対して会議場にいらした方々から温かい反応をいただきました。議長には歓迎の言葉とともに、官民間の協力例として興味深いというコメントをしてもらうことができ、バンコクまで来た甲斐があったと感じました。また、休憩時間中にも各国代表団から声をかけていただき、応援の言葉をいただきました。特に、ある国の方が話されていた次のような感想が印象に残っています。その方いわく、「私たちの国でも非行少年が社会に復帰するためには必要な社会的つながりを確保するには、有給の公務員による保護観察のような取り組みだけでは不十分であることを認識しているので、民間の資源をなんとか利用したいと考えている。しかしながら自国において、日本のBBS活動のような若者を中心とした自発的活動が普及するのは難しいかもしれない。その意味でどのようにして日本のBBS活動が始まったのかとても興味がある」とのことでのことで、必ずしも若者のボランティアによる非行少年の支援というものが一般的ではないということを実感しました。

帰国後、私の所属する早稲田大学広域BBS会の会員や、BBS会の合同研修において、バンコクでの経験を話す機会が多くありました。特に大学1・2年生はBBS活動の国際的な広報に興味を持っている学生が多く、来年のコンгресスユースフォーラムへの参加を希望してくれた人もいました。私自身は今年で大学院を卒業するためユースフォーラムに参加することはできないのですが、彼ら彼女らがユースフォーラムを素晴らしいものにしてくれる信じています。

今回こうしたBBS会における前例のない国際的取り組みに関わることができたことを光栄に感じると同時に、依頼をいただいた当初から帰国に至るまで常に温かいサポートをしてくださった保護局や日本代表団の方々に心から感謝しています。





# 第6回学生BBS会員全国研修会(福岡)



## 「第6回学生BBS会員全国研修会」活動報告

第6回学生BBS会員全国研修会実行委員会  
実行委員長 山本 嵩大(久留米大学BBS会)

平成31年3月2日(土)～3日(日)、久留米大学御井キャンパス(福岡県久留米市)で第6回学生BBS会員全国研修会が開催されました。

今年で6回目を迎える本研修会では、北海道から鹿児島県まで、様々な地域の学生会員49名が集い、活発な交流・研鑽を行いました。加えて、今年度は日ごろからお世話になっている関係団体の皆様や、BBSの社会人会員・久留米大学BBS会OBの皆様など、多くの方にお越しいただきました。遠方より足を運んでいただいた各位に改めて感謝申し上げます。



山本実行委員長

今年度の研修会のテーマは「みなかみ」でした。みなかみは、漢字では「水上」と書き、川の上流や水源のことを意味する他に物事の起りや始まりを表す言葉としても用いられます。また、福岡県久留米市で作曲され長年歌い継がれている混声合唱組曲『筑後川』の第1楽章のタイトルでもあり、今回の開催地とは深い縁のある言葉だといえます。研修会で得られる学びや繋がりが全国各地に広がっていくことをだんだん大きくなる川の流れに喻え、そのスタートを意味する言葉を今回のテーマとしました。

開会式を終えた会員らは、アイスブレイク(初対面同士の緊張を解きほぐすための手法)として2種類のゲームに参加しました。6人程度の小グループごとに「自己紹介リレー」、「お絵描きリレー」を行い、互いのことを少しづつ知りながら良い雰囲気づくりができていたと思います。



スタッフ一同

続いて行われた研修Ⅰでは、心理カウンセリングで用いられる技法の一部を学びました。これらは実際のカウンセリングの現場では勿論、日常的な会話やコミュニケーション等にも活かすことができるといわれるもので、我々BBS会員の行う「ともだち活動」にも活用できると考えられます。ペアや小グループで実践・話し合い・理解の確認をしながら行われた研修Ⅰでは、学生会員の積極的な姿をたくさん見ることができました。

さらに、研修Ⅰで学んだことを早速活かすべく、グループごとにロールプレイ(以下、「RP」。)を作成・実施しました。このRPの登場人物や状況等の設定は、各グループで「ともだち活動の場面を想定する」という条件下で自由に考えてもらいました。また、ループには必ず1～2名のともだち活動経験者を含むように班分けをしており、ともだち活動をよく知らない会員でも経験者から実際の活動の様子を聞くことができ、良い刺激となっていたようです。加えて、九Bの松元会長や、更生保護に携わる関係団体からお越しの方に話を伺う様子も見られ、普段の活動ではなかなかできない経験ができたのではないでしょうか。

翌日行われた研修Ⅱ(RPの全体発表)では、与えられた10分間の中で8グループそれぞれが実体験や工夫を散りばめた演技を行いました。学生から「他県の実際の活動・事例を知ることができた」「ともだち活動について考える良い機会になった」「経験者から教えられて身になった」といった感想が出された他に、お越しいただいた方々にもコメントやお褒めの言葉をいただきました。



最後に行われた研修Ⅲでは、学生のBBS活動で起こりがちな問題や実際の課題(会員数、活動の参加率等)について話した他、大学卒業後の活動継続も話題として取り上げられました。研修Ⅲには充分な時間を割くことができず、話し足りない様子の会員も多かったのですが、「自分たちの大学でも取り入れなければならないという内容もあった」「今自分たちが困っていることを相談できた」「他の地区のことを知るのは新鮮で、参考になった」といった感想が寄せられました。私自身も全国各地の学生・学域の取り組みや努力に驚かされ、今後さらに互いの活動や実情を共有する機会を増やしていくことが重要なのではないかと感じています。

今年度の研修会は、法務省保護局(2名)、九州地方更生保護委員会(委員長ら2名)、福岡保護観察所(所長ら2名)、久留米保護区保護司会(会長ら2名)、久留米市社会福祉協議会(1名)といった関係団体の皆様にお越しいただき、私たち学生会員の姿を見ていただく機会となりました。



また、久留米大学によって研修会やその準備に関する施設利用費は全額免除となり、研修会2日目には以前別の地域でBBS活動に携わっていた心理学科の准教授にお越しいただきました。今後大学のHPにも写真が掲載される予定です。さらに久留米市社会福祉協議会ボランティアセンター発行の広報誌では研修会の様子が取り上げられ、久留米市観光コンベンション国際交流協会からは助成金を出していただきました。学生からも実行委員に加え、県内の学生が属する計6つのBBS会すべてから研修会参加の連絡と助力がありました。

このように多くの方々や団体、地域社会に支えられ本年度の研修会を終えることができました。ご支援・ご協力いただいた関係機関や社会人会員の皆様、研修会に参加した学生会員の皆さんに改めてお礼申し上げます。ありがとうございました。

これから「みなかみ」のテーマの通り本研修会での成果や学びが多くの会員に広がり大きくなっていくこと、そして来年度以降も学生研修が続していくことを願っております。





# 平成30年度コンセプト・スタディ中間報告



## 平成30年度沼田町3者連携プロジェクト「ほたるの里へGO」

チームリーダー SGU江別BBS会 高野 紗也香

私たち3名は、平成30年9月3日(月)から6日(木)の4日間、沼田町で実施した「BBS、沼田町、沼田町就業支援センター3者連携プロジェクト」のサポート役として、2日間のグループワークの企画・運営を行いました。

平成30年10月発行の機関誌『ともだち216号』で、プロジェクトの概要や参加者の声を紹介しています。この中間報告はチームリーダーの活動報告書から紹介します。

北海道からの参加者はSGU江別BBS会(高野紗也香・寺岡瑠里・高橋美佳)の3名です。主な活動は2日目からで、以下はその感想です。なお、4日目は北海道胆振東部地震の影響で中止となり、レポートを提出しました。

### ★2日目★

- ・農業実習(トマト収穫・菌床運び)
- ・センターの外で夕方バーベキュー
- ・グループワーク(花火・だるまさんが転んだ・しつぽ取りゲーム・バレーボール)

農業実習は、少年とペアになり、収穫の方法などを教えてもらいながら行いました。実習中、少年と趣味や出身地などいろいろなことを話しました。椎茸の菌床の作業は初めての経験でした。暗いハウスの中で行うので、少年たちの「椎茸の作業は一番嫌い」という気持ちが少しありました。夕方には、就業支援センターでバーベキューと花火を行い、その後ホテルの体育館へ移動して運動を行いました。「しつぽ取りゲーム」は全員全力で楽しんでくれました。時間が余ったため、ホテルでボールを借りて3チームに分かれてバレーを进行了。少年たちの力強いサーブにはとても驚かされました。球技はケガの可能性を考えて、企画には入れていませんでしたが、少年たちの楽しそうな反応を見ると、来年は球技を中心とした内容でもいいのかなと思いました。花火については、喘息でできない少年がいたので、事前にチェックをするべきだと反省しました。



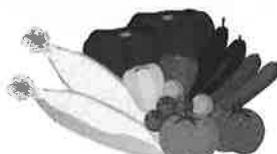
「バスは待ってくれない」の様子です。

### ★3日目★

- ・町長との座談会
- ・農業実習(菌床運び・かぼちゃ収穫)
- ・関係団体との座談会
- ・夕食(センターで少年たちと)

台風の影響で午前中の農業実習が中止となり、町長との座談会が行われました。前日に少年と話した内容を基に、「ここは、改善できないだろうか」など意見を伝えたり、質問をしたり貴重な時間となりました。午後、椎茸ハウスで菌床の移動とかぼちゃの収穫を行いました。かぼちゃの収穫は力仕事な部分があり、少年たちの仕事の速さに驚かされました。その後は関係団体との座談会を行いました。就業支援センターが建つ前の反対運動や少年たちと関わりについてなど多くのことをお聞きしました。

この日は、就業支援センターで少年たちとご飯を食べました。夕食後はグループワークを行いました。「バスは待ってくれない」というカードに書いてある情報を口頭で共有して1つの地図を作り上げるゲームとジンガを企画しました。「バスは待ってくれない」は、少し難しいものだったので失敗も視野に入れていましたが、思いのほか飽きることなく制限時間を忘れてしまうほど楽しんでくれました。この後、ジンガをやって自由時間としました。自由時間には、センターにあった人生ゲームや黒ひげ危機一髪などを少年たちと楽しみました。今回のプロジェクトは主にグループワーク企画とのことでしたが、スケジュール全てに参加させていただいて学びも多くありました。特に、農業実習と座談会は、そこから活動についてのヒントをもらういい機会となりました。是非、来年も協力させてください。



- プロジェクトの概要

- ①期 日 平成30年11月10日(土)
- ②場 所 障がい者授産施設「スローウォーク」畠
- ③テーマ ·今の僕らに出来ること、未来の僕らが出来ること  
·事業の運営から学ぶ



(地域におけるBBSの活動とスキルアップ…社会情勢の変化の中での活動の継続、関わり方)

- 当日スケジュール

「スローウォーク」畠で、いもほり・焼き芋(雨天時の態度決定は 8:00、スローWORK へ連絡、態度決定後、リーダー及び佐賀地区BBS会員で手分けして、参加各家庭へプログラム変更を電話連絡。)

- 注意点…準備物・危機管理

(準備物)…西九州大学BBS会及び佐賀地区BBS会にて事前会議で準備物の確認(雨天時を含む)

(危機管理)…抜粋

- ◎ 子どものテンション(石を投げるなど、けがにつながる行動面に注意)。
- ◎ 雨や朝露などで足元がぬかるむため、転倒に注意 (特に農具を持っての状況時は要注意)
- ◎ スコップや鎌などの農具は地面などに置きっぱなしにせず、使用後はコンテナへ。
- ◎ 火の周り、害虫、用水路、溝などの穴に注意。
- ◎ けが防止のため、履物は運動靴又は長靴、衣服は汚れても良い長そで長ズボンでの参加を依頼。
- ◎ トイレは母屋屋内。必ず会員が同行。
- ◎ 熱中症対策…適度な水分補給と休憩、体調確認。帽子も着用。
- ◎ 敷地外の道路に子どもが飛び出ないよう注意。
- ◎ 天候、特に雷の動向に留意し、遠雷が聞こえた際には安全な場所へ退避する。
- ◎ 焼き芋のアルミホイルは、水につけて冷やしてからゴミ袋へ…やけど、火災の予防。



- 総括…振り返り

僕たち、西九州大学BBS会と佐賀地区BBS会は共に協力し合いながら活動や研修をしています。その得た双方の経験と知恵を、他の県B連や地元福祉関係からも参加を得て活動の幅を広げたい。

①チームA集合・作業説明と確認

- ・活動前・活動中・活動後のスタッフの行動確認
- ・通常では、社会人任せにしている事柄を事前会議や作業確認をしてチームAとして責任をもってやれた。

②活動開始…子ども達や保護者集合

- ・チームAメンバーによる全体的な関わりや指導は70%程度評価する。
- ・細かいところでのフォローを社会人の会員がされたので、助かったし、特別な問題も無かったと思う。
- ・また、参加親子に外国人の方がおられ、チームAの同国留学生が対応できた。

③チームA 振り返り反省会…参加親子解散後(抜粋)

- ・佐賀の学生が架け橋になってくれたので、子どもと話すことが出来た(久留米大)
- ・子ども達の一人一人危機管理が出来ていた、お互いに声を掛け合えていた(久留米大)
- ・他の地区の方と関われて良かった(チームA)
- ・イベントは子ども中心に出来て良かった、楽しめていた(チームA)
- ・笑顔が多かったのが良かった。良い活動だったと思う(福岡県B連会長)
- ・ケガが無いのが一番。今日の反省が次に繋がる。順を踏んで次回の活動に活かしステップを重ねていくと成長する。(熊本県B連会長)
- ・佐賀のBBSは和気藹々としていた、子ども達も愉しそうだった(福岡観察所担当)
- ・経験があるBBSと経験がないBBS。以前から参加していた子どもと初めて参加の子ども作業にも関わり方にも、それぞれ双方に差があり、それぞれの対応が必要(チームA)
- ・子ども達との関わりはBBSにとって、作業は「目的ではなく手段である」目的は「子どもの心の傍に寄り添う」…子どもの居場所・友だち作りのパイプ役・耳を傾けるBB・BSでありたい。しかし、作業でケガがあつてはいけないので、事前の危機管理は綿密にしましよう(佐賀地区会長)。



## 児童養護施設、自立支援施設、ともだち活動等における学習支援・会話支援

チームリーダー 山梨県BBS連盟会長 若林 裕平

私たちは、子どもたちに対する学習支援と会話支援を通じた育成支援の拡充に取り組んでいます。山梨県BBS連盟では、社会的養護下におかれる子どもたちに対する学習支援を主な活動としてきましたが、学力的な問題に加え、大人との適切な会話ができなかつたり、自己をうまく表現できなかつたりするためには不適応を起こす子どもが多いという問題も感じたため、いつからか学習支援に加えて会話支援も行なうようになってきました。こうして山梨BBSの特色ともいえるようになった会話支援ですが、まだまだ発展途上なため、今回コンセプト・スタディとして掲げ、より多くの活動に寄与し、さらなる可能性を探っていきたいと考えています。

本活動のねらいは、単なる学習支援で終わらず、その場を利用した会話支援も含めて“包括的な育成支援”を行なうことで社会性を育むことにあります。それは、子どもたちが安定した社会生活を送るための支援であり、同時に、近年話題になってきているSNSを通じたコミュニケーションの在り方や、それに付随した社会的問題の対策の一助として期待できると考えます。また、会話によってその子の持つ課題や不安の解消や、将来に対する助言等を行なうことで自己肯定感や希望感を高められるよう支援します。対象の子どもたちは、問題に直面しても自己完結てしまい、相談できなかつたり心情を暴露できなかつたりしますが、人に相談したり話をしたりする機会を増やし、社会との繋がりの必要性が実感できるようにも支援します。施設等においてもBBSが学習支援や遊び支援、会話支援などを担うことで、職員の負担の軽減やアセスメント・ヒアリング機能を果たすことができるかもしれません。さらに、これらをもとに意見交換会等を主催し、各方面が実施している子ども支援を繋ぐ役割も担っていけたらと思います。

チームの中心メンバーは5名ですが、実際の活動メンバーとなると40名になります。現在、1週間に1～2度、児童養護施設や児童自立支援施設に通い、育成支援を行なっています。また、山梨県警少年助成課や教育委員会と連携した「少年サポートネット推進協議会スマイルサポートプロジェクト(通称:スマサポ)」に協力する準備を進めています。スマサポは、家庭裁判所において保護処分を受けずに家庭に戻された子どもの再犯率が高いことに着目し、就労や学習に打ち込むことをサポートすることで再犯防止を図ろうとする取組です。山梨BBSとしては、ここに“会話支援”も取り入れてコミュニケーション能力や自己表現力を高める支援をし、ゆくゆくは社会参加活動を通して、より社会の一員としての実感を持てるような支援を実施していく考えを表明しました。

反省として、会話支援を継続しても、成果が見えにくかったり、判定しづらかったりするため、このままではまとめが中途半端なものになる可能性もあると感じたため、当初のスケジュールを一部変更(アンケートの実施など)しました。ただ、BBS会員に対する意識付けや着眼点の強化といったスキルアップには貢献できたと考えています。残る課題は、対象者に対する的確かつ効果的な支援が実施できるかという部分やそれらに影響を受けた対象者が社会の一員となるための一助となれるかどうかといった部分で、それらについては、他県連のBBS会員や関係機関などに相談をしながら進めていく予定です。

## 四国Xプロジェクト

チームリーダー 四国地方BBS連盟 岩瀬百合恵

### 1 プロジェクトの概要

テーマは、次の2点です。

- ・子どもの貧困および家庭状況の格差の改善をめざす活動
- ・四国一体となって児童福祉等の関係機関と連携・情報交換をしながら、子どもの居心地の良い社会の実現を目指す

BBS会員が、居場所をつくり、学習機会を設けることで、子どもたちに充実した生活を提供することを目的とします。そのため関係機関と連携し、イベントの企画とリーダーの養成、四県での連携強化、情報共有もねらいとしています。

具体的な内容は、四県でキャンプ等のイベント開催、長期休暇等の勉強をともにする場所の獲得。遊びを通しての居場所づくり、イベント開催のための研修などです。

### 2 チームメンバー

チームメンバーは5名(20代)うち3名は学生です。

### 3 プロジェクト実施計画の作成に至るまでの経緯

四国地連では、平成27年度のこども・みらい・サポート事業で四県における連携の重要性を感じるとともに、近年増加傾向にある若年会員の力を十二分に発揮する機会を得ることが必要と考え、平成29年から四国地方次世代リーダー研修を開始しました。今後さらに、新規事業の開拓、積極的なイベントの企画・立案に取り組もうとしています。

### 4 プロジェクトの実施状況(中間報告)

事前準備として、イベント開催のための研修を実施しました。コンセプト・スタディの主旨にのっとり若い会員を中心としたイベント企画運営のため、知識と技能の習得を図りました。実施内容は以下の通りです。

(1)開催日時 平成30年11月24日(土)、25日(日)

(2)場 所 香川県青年センター

(3)参加人数 14名

(4)内 容

#### ・アイスブレイキングの研修

キャンプをはじめとしたイベントではアイスブレイキングを最初におこなうことが多いため、アイデアを持ち寄って異なる年齢層や、一般家庭のみならず多様な子どもの生活状況(児童養護施設等)に対応できるようアイスブレイキングの引き出しひろげる研修を行った。各県から持ち寄ったアイスブレイキングは子どもたちの様相にあわせ創造的であり、思いやりにあふれたものとなりました。



#### ・グループディスカッション

四国の会員の交流は、円滑なイベントの運営を促進するものと考え言葉による交流を主眼とした研修も行った。BBS活動に関わったきっかけや、活動上で思っていること、今後の目標などを共有することで信頼関係をつくり、また相手の話をよく聞くという態度を養うものであったと感じる。

#### ・ケース検討

養育が困難な児童生徒への対応はBBS活動を行う上でも重要です。さまざまな個性をもった子ども達との交流のため、知識の習得やイベントを実施する際の留意点など話しあった。参加者は学生が中心であるため、日頃学んでいる知識を活かす重要な機会であった。

#### ・Tシャツづくり

イベントで実際に着用するTシャツデザインの考案を全員で行った。四国ならではのアイデアを取り入れたものや、子どもにも馴染みやすいデザインなど、会員達は着用する時を想像しながら楽しそうな雰囲気で取り組んでいた。同じデザインのものを着用することで結束力をたかめイベントにのぞみたい。



### 5 30年度の反省と令和元年度の課題

若い会員に中心的に動いてもらう準備が不足していた。四国地方BBS連盟には多くの学生会員が所属し、学生会員を中心にコンセプト・スタディを進行していきたいと考えています。実際に動くことができたのは一部の学生で、研修が精一杯でした。集まつたのは 30 年度総会交流会回生以上の上級生で、1, 2回生の参加は少なく、1, 2回生のうちからコンセプト・スタディに積極的に参加できる土壌を整えたい。安心して参加できるBBS活動の場を積極的に展開したい。令和元年度は実際のイベント企画および実施のため実際に動いていきたい。関係機関と連携を密にし、合同研修などの機会をもうけて円滑なイベントの計画と実施運営をしていきたい。

## お知らせのページ

受賞おめでとうございます！！

平成30年度「日本BBS連盟会長特別表彰」受彰者です！  
総会で、県連代表者に授与しました。

青森県 森 美咲(もり ひより)さん  
青森県立保健大学BBS会



### 更生保護制度施行70周年記念大会の開催について

令和元年は、我が国における更生保護制度が施行されて70周年を迎ますが、この間、関係者のたゆまぬ努力により、更生保護制度は刑事政策における重要な一翼を担ってきました。近年、再犯防止にかかる更生保護の役割に対する期待はこれまで以上に増しています。このような折に、全国の更生保護関係者が一堂に会し、記念全国大会を挙行して功労者の顕彰を行い、意識の統一と士気の高揚を図り、もって更生保護制度の一層の充実と発展を期そうと、次のとおり、記念大会が開催されます。

日程 令和元年10月7日(月曜日) 記念式典 午後1時から1時間、研究協議 午後2時20分から1時間

主催 法務省、東京都、特定非営利活動法人日本BBS連盟を含む全国の更生保護関係団体

参加者 約5,000人(BBS関係者は、法務大臣感謝状受彰者を含めて50人)

式典では天皇皇后両陛下がご臨席の下、法務大臣表彰・感謝状等の顕彰が行われます。研究協議では、令和時代の次の10年を見据えた更生保護の展望をテーマとして、シンポジウム形式により、保護司、更生保護女性会員、BBS会員等代表者各1名が参加して行われます。参加者は、地方更生保護委員会ごとに割当てられます。

なお、地方更生保護委員会ごとに、「更生保護制度施行70周年記念地方大会」が10月下旬以降8箇所で開催され、日本BBS連盟から、代表者が出席する予定です。

### 京都コングレス・ユースフォーラム参加者の決定と第1回研修会の開催について



ユースフォーラムのロゴマーク

前号で紹介したとおり、ユースフォーラム参加者応募の説明会が全国6か所で行われ、北海道から九州まで会員の応募があり、審査の結果、5月10日、応募者19名がユースフォーラム開催に向けて協力することになりました。

応募者全員で本番(来年4月13~15日、京都国際会議場)に向けた作業に関与していきます。このうち11名の学生・社会人会員は、日本更生保護協会の助成を受けて、本年9月18~20日、シドニー市で開催される第4回世界保護観察会議に参加し、BBS運動や青年ボランティアの役割について発表する予定です。

第1回研修会は、6月15日午後、悪天候の中、更生保護会館で開催され、参加者17名が一堂に会しました。押切更生保護振興課長、戸田会長のあいさつに続き、全員が自己紹介し、保護局から講義を受け、ユースフォーラムで発表する日本のBBS運動について、グループ協議が行われました。

この研修会には日B連常務理事も同席しましたが、学生会員、若い社会人会員の取組がシドニーの世界保護観察会議や京都のユースフォーラムで世界に向けてアピールされるとともに、我が国のBBS運動にもよい刺激を与えることとなるよう、引き続き、地連・都府県連盟・全国のBBS会員のご理解ご協力をお願いします



研修であいさつする戸田会長



研修会の様子

# クラウドファンディングを活用した資金調達等について

令和元年度、クラウドファンディングを活用した資金調達に関する実践的研究が開始されました。

従来から、社会的に重要ではあるが、公的な助成では活動資金等が不足する、あるいは公的な助成が困難な部分を、民間篤志家がカバーし、資金提供する方法がとられてきました。しかしながら、時代とともに企業等に資金提供を求めて日B連が助成する方法が難しくなり、また、公益法人の在り方が問題になるなどし、日立財団の助成も平成30年度で終了しました。活動には資金と人が必要であり、これまで同様、日B連が関係機関団体を回って青年ボランティアの重要性を説明し、資金提供を受けて、地連・都府県連・地区会又は特定の活動に資金提供することも必要でしょう。総会でも協議されましたが、日B連正会員や賛助会員の増強、休眠預金の活用、指定寄付者の確保も課題です。

一方、クラウドファンディングを活用した方法は、活動の実施主体が、インターネット経由で不特定多数の人々に訴えて資金提供を求め、これらの人々を活動の協力者・サポートナーにしていくというものです。ここでは、活動の実施主体は、資金提供を期待するだけではなく、自分たちの活動を人々に説明して理解や支援を求め、責任を果たしていくことになります。

令和元年度の総会2日目に福祉医療機構経営サポートセンターから「クラウドファンディング」について講義がありました。

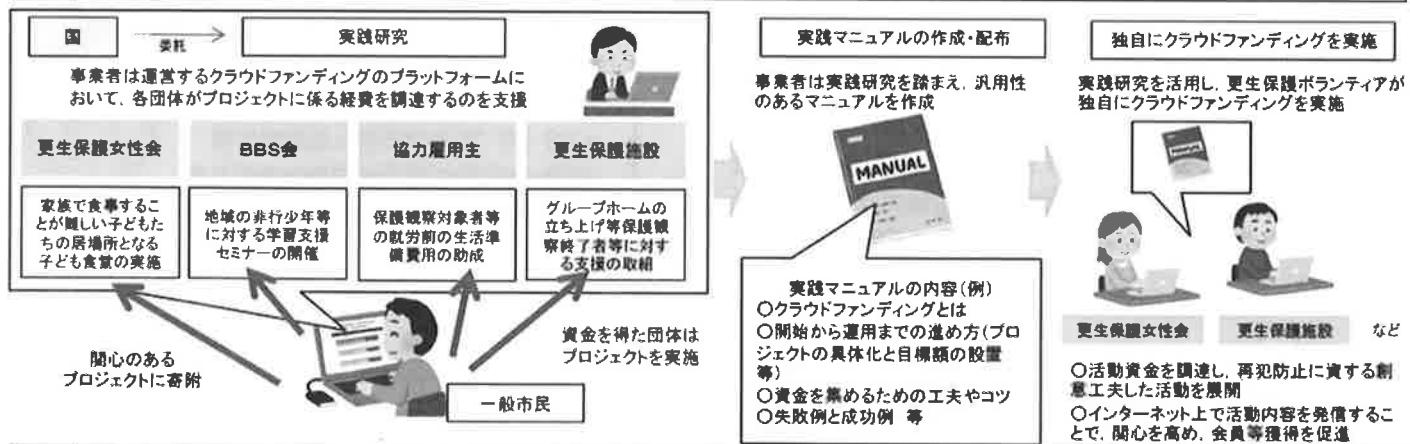
クラウドファンディングを活用したいという地区会は、法務省保護局更生保護振興課に相談してください。

## 民間資金を活用した民間ボランティア活動の促進

現状・課題	<ul style="list-style-type: none"><li>○ 更生保護ボランティアの中には、保護観察対象者の立ち直り支援に加え、地域社会が抱える様々な問題の解決に向け、国の取組を補完しつつ地域社会の犯罪予防や再犯防止に寄与している活動がある。</li><li>○ しかしながら、こうした活動のほとんどはボランティア自らの手弁当で実施されており、いずれの団体も財政基盤は脆弱である中、創意工夫の取組が常に存続の危機に瀕している。</li><li>○ 他方、不特定多数の人々がインターネット経由で他組織に財源の提供等を行うクラウドファンディングの手法を活用して、事業実施に必要な資金を調達する取組が近年急速に広がっている。</li><li>○ 再犯防止推進計画においても、民間の団体等の創意と工夫による再犯防止活動の促進するための方策として、「再犯防止活動への民間資金の活用の検討」が盛り込まれており、このことからも更生保護ボランティアがクラウドファンディングを活用して必要な資金を調達する方策についての実践研究を実施することが必要である。</li></ul>
-------	---

## クラウドファンディングを活用した資金調達に関する実践研究等を実施

対策	<ul style="list-style-type: none"><li>○ クラウドファンディング事業者に委託し、更生保護ボランティアが行っている地域社会の様々な問題の解決に向けた活動に対し、クラウドファンディングを活用して資金調達する方策について実践研究を実施</li><li>○ 実践研究の成果物として実践マニュアルを作成し、当該マニュアルを通じて広く更生保護ボランティアがクラウドファンディングを活用できるよう横展開を図る。</li></ul>
----	---



## (参考)

### 更生保護女性会・企業・行政・地域社会と連携した活動について

BBS会がしたい活動と類似した活動を更生保護女性会が取り組んでいたり、企業・行政・地域社会の団体も考えている場合があります。BBSから地元企業のCSR担当者、行政や団体事務局に電話してみてください。社会貢献、ボランティアをしたい企業や人は増えています。彼らは、直ちに相談に乗ってくれます。